

自己評価報告書(最終報告)

報告者

人間形成コース／木内 陽一

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

「篠原助市教育学の研究」

『篠原助市著作集』(全7巻、学術出版会、2010)編集と解説を執筆した経験を踏まえて、以下の点を中心にして、研究計画を練り上げたい。

- ・篠原の名著『教育の本質と教育学』(1930)の教育学史上の意義
- ・「理論的教育学」と「実際的教育学」の関係規定
- ・「実際的教育学」の形成過程
- ・篠原教育学の現代的意義

2. 点検・評価

結論的にいえば、予定した科研費申請をすることが出来なかった。テーマは実行可能であったが、科研費申請にいたる計画に無理があったと考える。

ただ、中間報告で言及したテオドル・リットの翻訳は、テオドル・リット著、小笠原道雄編、木内陽一・野平慎二訳『原子力と倫理—原子力時代の自己理解』(東信堂)として出版され、多大な反響を呼んだ。科研費申請は叶わなかったが、十分な学界への寄与ができたと考えている。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

平成24年度の入学者数の落ち込みを反省し、方策を考えたい。とくにパンフレットの送付先を検討し、効果を見込める送付先に

重点的に送付したい。現在のところ、中国、四国を中心に送付する予定である。

また、教育哲学会の関係者と連絡を取り、学生に鳴門教育大学をすすめるようお願いする。

2. 点検・評価

平成25年4月1日現在で、入学者は12人と判明した。前年度よりは良い結果を得たが、定員の15人を確保することはできなかった。

在学している院生の話では、学部時代の指導教員に勧められたという人が複数名いるので、他大学教員の知人とさらに連絡を

密にして、広報活動を行う所存である。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

鳴門教育大学フィルハーモニー管弦楽団顧問として、学生の活動を支援したい。

2. 点検・評価

演奏会を実現するまでには至らなかった。また、最後まで実現に努力したが、恒例の学位記授与式での演奏をすることができなかった。

新入団員の獲得にさらに努力したい。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

2012年は、ドイツの哲学者・教育学者テオドール・リットの没後50年である。
小笠原道雄広島大学名誉教授の支援を受けて、リット論文の翻訳を進める。
リット研究者のディーター・シュルツ教授(ドイツ・ライプツィヒ大学)の招聘に協力し、来日を実現すれば、講演通訳として支援する。

2. 点検・評価

ドイツ語の拙論と翻訳(テオドール・リット著、小笠原道雄編、木内陽一・野平慎二訳『原子力と倫理—原子力時代の自己理解』)を出版した。

ディーター・シュルツ教授(ドイツ・ライプツィヒ大学)の招聘は、他大学の先生方や若手の方々が尽力してくださり、私は直接的には担当しなかった。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

大学院教務委員会副委員長、人間形成コース長として、大学運営に寄与する。

2. 点検・評価

大学院教務委員会副委員長、人間形成コース長として任務を遂行した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

平成24年徳島県保健師助産師看護師等実習指導者講習会講師として、「教育原理」を担当する。

2. 点検・評価

平成24年徳島県保健師助産師看護師等実習指導者講習会講師として、「教育原理」を担当し、好評であった。
鳴門市・リユネブルク市姉妹都市運営委員を拝命し、市役所の担当者とともに、中学生、高校生の交流に努力した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)